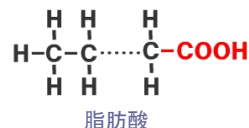


松井化学株式会社 カチオン系ソープ用

# MCードライキャッチャー

## (脂肪酸除去剤)



ドライクリーニングにおいて、洗浄中に発生してくる脂肪酸は悪臭の原因にもなり、又溶剤の着色やフィルターが目詰まりの原因にもなり、ドライクリーニングの最大の問題点でした。

ドライクリーニングで洗浄性を追求しても溶剤の汚れがひどければ、より悪いものとなってしまいます。(異臭や逆汚染の発生)  
蒸留装置を使用しても、脂肪酸は溶剤と共に蒸留され、新液に戻ってきます。(特に沸点の高い石油系溶剤)



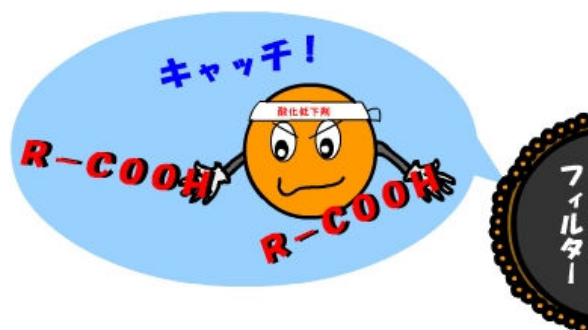
エレメントの中の脱酸剤(アルミナ等)で、対応するしか方法はありませんでしたが……



## 【MCードライキャッチャーとは…】

MCードライキャッチャーは、ドライクリーニング洗浄において発生してくる脂肪酸をキャッチし、フィルターの表面に付着して除去します。

付着した脂肪酸はパサパサの脂肪酸反応物となるため、フィルター圧を上げることはありません。  
また、フィルターの効果は脂肪酸がフィルター外で除去されるため、20%~50%長もちします。  
(使用状況により異なります)



脂肪酸の除去により石油溶剤の着色はおさえられ、また溶剤のにごりもなくなり脂肪酸特有の臭いなくなります。

カーボンフィルターもほとんど不必要となります。



## 【 使用方法 】

① MCドライキャッチャーを、ドライ機の大きさに合わせてドラムに投入します。

ドライ機の大きさ	MCドライキャッチャー投入量
10kg	25cc
20kg	50cc
22kg	60cc
30kg	75cc

② ドライ機を空運転して、溶剤を循環させます。

③ 25ワッシャー毎に、ドライ機の大きさに合わせて、ドラムに投入して下さい。

**ドライ機の扉を開けると、ドラム内のバルブが開くタイプのドライ機の場合は、タオル等にドライキャッチャーをしみこまして、空運転をして下さい。**

**MCドライキャッチャーを一度に大量に投入すると、フィルター圧が急激に上がる場合がありますので投入量は、規定の投入量を守って下さい。**

\* フィルターの持続は、(20%~50%)ドライソープの投入量、被洗物の汚れ具合、前処理などの使用量で変化します。

### 注意

MCドライキャッチャーは、カチオン系のドライソープを使用しないと効果がありません。

アニオン系のドライソープには、使用できません。

石油系、パークロエチレンの溶剤に使用可。

(フッ素系溶剤は、沸点が低いため脂肪酸は、蒸留時に除去されます)



所在地：〒661-0026 兵庫県尼崎市水堂町 3-4-3

TEL 06 ( 6438 ) 7305 / FAX 06 ( 6438 ) 4795

ホームページ <http://www.ee-mc.jp/>